


会 議 録

会議の名称	令和元年度 第1回行田市地域包括支援センター運営協議会	
開催日時	令和元年7月4日(木) 【開会：13時30分、閉会：15時00分】	
開催場所	産業文化会館 第2会議室	
出席者(委員)氏名	中村 晴雄 青木 正 堀内 規 松井 毅 新井 孝幸 風間 祥一 大澤 良子 小暮 福三 東 隆俊 金子真紀子 (敬称略)	
欠席者(委員)氏名	なし	
事務局	健康福祉部高齢者福祉課(野辺課長、柴崎地域包括ケア推進幹、萩原主査、守主任)	
会議内容	自己紹介 議 題 (1) 地域包括支援センター平成30年度事業報告について (2) 地域包括支援センター令和元年度事業計画について (3) 介護予防支援事業等の委託先事業所承認について (4) 認知症初期集中支援チーム活動報告	
会議資料	○次第 ○資料一式 ○当日配布資料 ・介護予防支援事業等の委託先事業所承認について ・認知症初期集中支援チーム対応事例 ・地域包括支援センター平成30年度事業報告(1～4頁分差替え)	
その他必要事項	事務局のほか、各地域包括支援センターから職員が8名出席した。	
会議録の確定	確定年月日	主宰者記名押印
	令和元年7月9日	中村晴雄 

発言者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
青木委員	<p>○開会【13:30】</p> <p>○会長あいさつ</p> <p>○新委員の紹介及び市・地域包括支援センター職員自己紹介</p> <p>○議事【13:45～】</p> <p><u>[1]地域包括支援センター平成30年度事業報告</u></p> <p><u>[2]地域包括支援センター令和元年度事業計画</u></p> <p>1点目は3ページ目にある社会福祉士部会の中の主な内容の中にある・身元引受実施NPO法人つばきさんとありますが、具体的にどのような法人なのか。2点目、認知症カフェは何か所あるのか。</p>
事務局	<p>NPO法人つばきは市内にある法人で、主な活動としては身寄りのない人の身元引受の他にもフードバンクや福祉的な全般の支援をして頂いている。今回、身元引受の事業を開始されたので各地域包括支援センターで紹介している。2点目の認知症カフェは6か所、2か所増やして今年度8か所にする予定。</p>
青木委員	<p>認知症カフェはどこにありますか？</p>
事務局 (柴崎推進幹)	<p>6か所あり、特養の緑風苑、包括ふぁみいゆ、川島胃腸科の前にあるミキ薬局、城西にあるGENKINEXT 行田城西、行田中央総合病院、包括まきば園。包括緑風苑は特養緑風苑と行田中央総合病院が法人として行っている。また、包括壮幸会も市の委託ではないが同一法人内でカフェを設置している。2か所増設は手続き中。</p>
青木委員	<p>認知症サポーター養成講座を定期的で開催する中で、事業を実施している緑風苑のなかで感触や、効果があったら聞きたい。</p>
機能強化型地域包括支援センター緑風苑	<p>昨年度包括支援センター緑風苑で22回開催して、参加者が372名。定期的な開催については、なかなか参加人数が少ない所を課題として取り組む中、定期的に行っているという事が徐々に周知されてきている。企業は団体としての申し込みはないが、色々な会社の方や商店の方が定期開催の回に参加して地域で活用しているのが結果として見えている。小学校とか大きい団体の方で、高齢者と接する機会が無くても地域で声をかけたり見守りをしようという傾向は、例年出てきていると感じている。また、認知症サポーター養成講座のフォローアップの研修も行っているが、先程</p>

	<p>の認知症カフェのボランティア育成を合わせて行っており、カフェにボランティアが参加するのが増えている。</p>
青木委員	<p>カフェと養成講座はつながりがある。</p>
東委員	<p>7ページの3包括的・継続的ケアマネジメント業務は、さっきの事務局の話の中では、地域サークルと連携の話があったが、具体的には地域サークルはどういった所が対象になっているのか。逆に地域におけるケアマネジャーのネットワーク、ケアマネジャーの中にどういった地域サークル方が参加しているのか。</p>
機能強化型地域包括支援センター緑風苑	<p>地域サークルというか、地域のケアマネジャーの集まり、例えば4つの包括支援センターその圏域内の各事業所のケアマネジャーの方々が包括毎に集まって勉強会をしたりしている。</p>
東委員	<p>対象者がケアマネジャーという事ですか？地域サークルと言ったので、別の市民活動団体が情報の共有とか、主旨に賛同する方が集まっているというイメージをしていた。</p>
機能強化型地域包括支援センター緑風苑	<p>ケアマネジャーやサービス事業所の方への支援、相談対応。</p>
中村会長	<p>高齢化率、高齢者が現行で行くと65歳、時代の流れ的に例えれば定年や年金を70歳にする流れもあるが、年齢要件の見直しは考えてはいないのか。</p>
事務局 (柴崎推進幹)	<p>今まで一般的に65歳から高齢者の扱いになっていたが、今の高齢者の方が就労も含めて元気で地域に関わる方が多くなってきて、イメージとしては若い。高齢者の扱いをどうするかは今後、国等で議論していく様な形。行田市だけ変える訳にはいかないが、年金の受給や就労関係で高齢者の概念が変わっていくと感じている。</p>
青木委員	<p>いくつかの地域で買い物の問題が出ていたが、エコス閉店で行田・忍地区の高齢者が徒歩や自転車で買い物が出来ていたのが難しくなってしまう。農村部だけでなく都市部の問題でもある。行田市として先も見据えて何か考えた方が良いのではないかと。もう一つ、ふあみゆに質問ですが子</p>

	<p>供食堂は高齢者も利用できるのか。食堂を利用している年齢層の割合は。</p>
地域包括支援センターふぁみいゆ	<p>施設を利用している子供、そのお母さんとお父さん、調理をするのが高齢者、交流の場となっている。</p>
青木委員	<p>対象としては子供食堂だから、子供、お母さん、お父さん。あと、サロンのランチ会参加者に男性が多いという事は、皆さん車で来るのか？</p>
地域包括支援センターふぁみいゆ	<p>自分で来ている方もいるが、送迎を出している。1人で食事をしている男性の方が多く参加している。</p>
小暮委員	<p>壮幸会に質問。22ページの2地域課題の中の「社会資源が少なく、集いの場として活用できる施設や・・・」で社会資源と出ているが、3令和元年の重点施策(1)の「多職種協働による・・・不足している社会資源の把握に努めて行きます。」社会資源の形が、何らかの具体的な形で示せるものがあつたらお聞きしたい。漠然と社会資源というと大雑把になるし、福祉関係の社会資源とはどういったものか確認したい。</p>
地域包括支援センター壮幸会	<p>社会資源と書いたが、下忍地区で書いてあるコンビニ、スーパー、福祉とか限ったものではなく地域の方が使える場所。</p>
小暮委員	<p>公共の生活にプラスになるものか。</p>
地域包括支援センター壮幸会	<p>公共のものや民間のもの、広いものを含めて利用できるものがないかなという意味合いである。</p>
小暮委員	<p>言葉が堅苦しいので、その部分を分かり易い言葉に置き換えられないか。北河原に住んでいるが店がなくなって、コンビニがあつて生活できるが、人が集まっている場所はある。生活必需品が手に入りにくい、特に高齢者は交通手段がない。バスは熊谷便のみ。社会資源という言葉では大きな福祉サービスをイメージしてしまう。かみ砕いて具体的な言葉がいい。</p>
地域包括支援	<p>生活に根差して地域住民が利用しやすい意味合いで社会資源と表した</p>

センター壮幸会	が、今後、社会資源という言葉を使い易い言葉に変更する。
小暮委員	行田市民が、温泉や油田の様なものを想像してしまうかも、もっと生活を楽しめる言葉で表現して欲しい。
中村会長	昨年度の会議で予算が最初からマイナスの予算はおかしいのではという意見があった。例えば25ページと65ページを比較すると、25ページの予算マイナス238万のままですが、65ページでは、マイナス287万が繰り入れ収入で差し引き0円、実際は壮幸会本体から繰り入れているのかもしれないが、記入の仕方を昨年の指摘を踏まえて改めて欲しい。壮幸会も穴埋めしているのならマイナスのままではなくて、0円の予算にして欲しい。
事務局 (柴崎推進幹)	その件について、法人毎と以前説明した通りですが、本来であれば包括を統括している市の方で統一的な形での予算書の作り方、包括と協議して資料作成の段階で統一できるように図るべきでしたので、包括の予算書の作り方について来年度に向けて再度確認して分かり易い表記に努めていきます。
中村会長	<p><u>[3]介護予防支援事業の委託先事業所承認について</u></p> <p><u>[4]認知症初期集中支援チーム活動報告について</u></p> <p>以上で、本日の議題は全て終了した。</p> <p>閉会【15:00】</p>

